

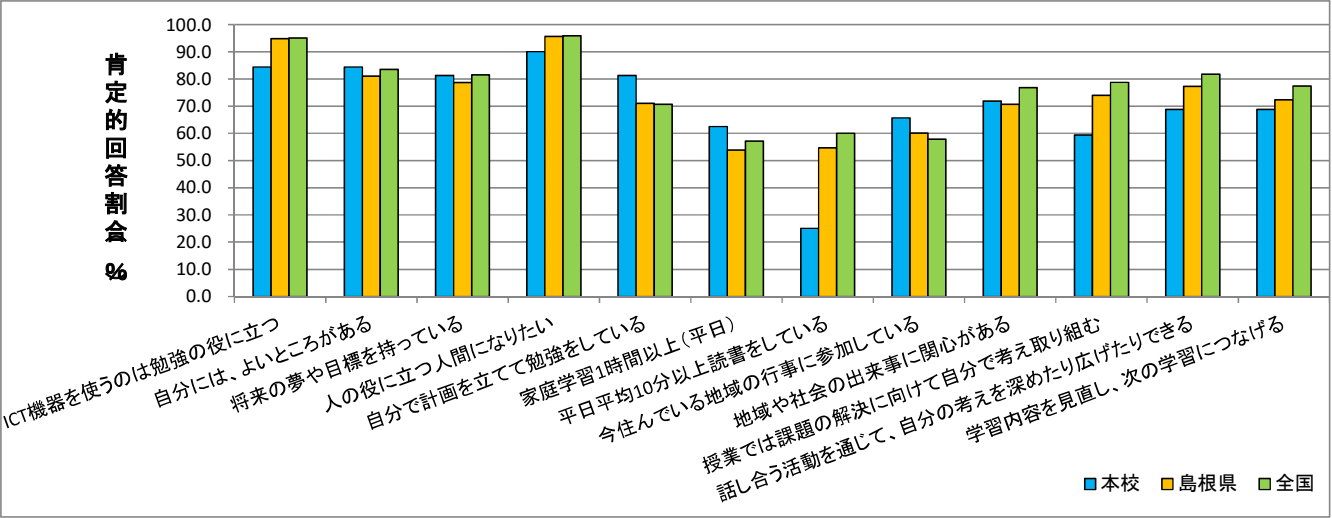
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○漢字を読む問題については正答率が高い。 ○目的を意識し、要約する問題の正答率がやや高い。 ○書く内容以外、バランスよく習得している傾向にある。 ●文章と図表と結びつけて考えることや、情報と情報を関連付ける問題について正答率が低い。 ●自分の考えを他者の意見と比較しながらまとめて論じる問題についての正答率が低い。	・文章を読む際に自ら問いをもち、目的意識や課題意識をもって文章を読むことができるようにする。 ・同じ文章(教科書教材等)を繰り返し読むことはもちろん、より多くの文章を読む学習機会を増やす。 ・読書量を増やすため、モジュール学習や朝の時間などを有効活用する。 ・授業ではアウトプットする学習機会を十分に設定し、友達の意見や考えと比較しながら文章を書く場面を増やす。
算数	○乗法の計算や図形の意味理解を図る問題については正答率が高い。 ○表から変化の特徴を読み取り、知りたい数を求めたり、表の中に適切な数の組を用いたりする問題については比較的正答率が高い。 ●式と表や式と図などを関連づけて考え、記述をする問題については正答率が低い。 ●割合についての問題の正答率が低い。	・答えを求めることを第一の目的とするのではなく、答えを求めるためにどのような図を使うか、どのような表を使うか、どのように言葉で表現するかといった答えを求めるまでのプロセスを重視した授業改善に取り組む。 ・図や表の扱いについては、分かったことや気が付いたことを書き込むという学習場面をより多く設定する。 ・文章問題や自分の考えを記述する問題を、授業や家庭学習、朝の学習の時間等で多く扱い、解法を話し合う場面を取る。

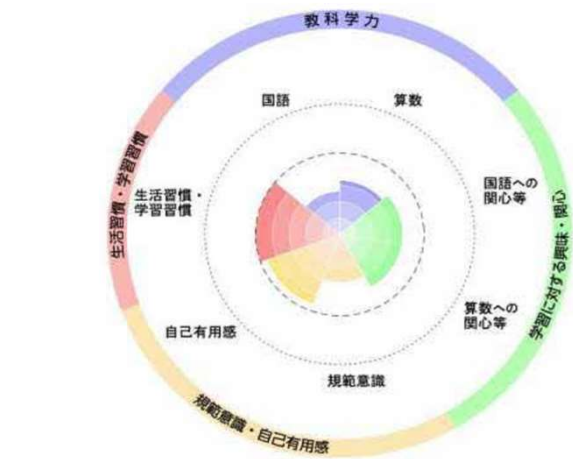
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自分にはよいところがあるという質問についての肯定的回答が高い。 ○地域の行事に参加する児童が多い。 ○自分で計画を立て、学習に取り組むという質問についての肯定的回答が多い。 ●10分以上読書をするという質問について、肯定的回答が低い。 ●授業では課題解決に向けて自分で考え取り組むという質問について、肯定的回答が低い。	・図書館司書や委員会活動と協力しながら、読書する時間が増えるよう工夫する。 ・授業では課題解決を児童の思いや疑問を尊重しながら、児童が自分で考え取り組むことができるようにする。 ・ICT機器を使い、児童の考えを深めたり広げたりできるよう、授業改善を行う。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・学習に対する意欲の向上を図るため、授業改善を行ったり、学校全体で取り組む学習活動の充実を図る。
- ・規範意識が全国平均に比べて低いため、人権教育や道徳教育、生活指導にも校内全体で取り組んでいく。
- ・総合的な学習の時間と他教科の学習を関連づける横断的な学びを通して、学力の充実を図る。

【受検者数】
32 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。